

一人一人の思いや願いを生かし、生き生きと活動する児童の育成

ー公共物や公共施設の利用を通してー

与那原町立与那原東小学校教諭 金城 淳子

内容要約

身近にある公園の利用を通して、児童の思いや願いを生かした学習指導を展開し、活動意欲の高揚を図るための体験学習を多く取り入れ、教材を工夫した。

公園に繰り返しかかわらせることにより、公園を利用する人や公園を支える人とのかかわりが深まり、生き生きと活動する児童の姿が見られ、適切な行動、公共の意識とマナーが高まった。

【キーワード】 繰り返しかかわる 気付き 公共の意識とマナー 思いや願いの成就 共に生きる

目 次

I	テーマ設定の理由	11
II	研究仮説	11
III	研究内容	12
1	一人一人の児童の思いや願いを育てるのには	12
2	知的な気付きとは	12
3	活動意欲を高めるために	13
4	公共物や公共施設の利用	13
5	思いや願いを生かし、生き生きと活動する学習指導の工夫	15
IV	授業実践	16
1	単元名	16
2	単元設定の理由	16
3	単元活動の流れ	17
4	本時の活動	19
5	考察	19
V	研究全体の考察	20
VI	研究の成果と今後の課題	20

一人一人の思いや願いを生かし、生き生きと活動する児童の育成

ー公共物や公共施設の利用を通してー

与那原町立与那原東小学校教諭 金城 淳子

I テーマ設定の理由

新学習指導要領では、体験不足や自立の遅れなどの児童の実態や少子高齢化社会が進行するとともに、地域社会の連帯感の希薄化などの社会状況をうけて、従来の生活科のねらいは維持しながら、児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験の中で生まれる「知的な気付き」をより一層重視する方向で改善された。

生活科のねらいは、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことである。自立の基礎は児童の主体的な「活動や体験」の中で生まれるものである。

本学級の児童は、帰宅後は自宅の近くで遊んだり、また、テレビを見たり、ファミコンゲームをしたりして家の中で過ごしていることが多い。自分の住む地域に興味がうすく、地域の施設の利用や地域行事への参加も少なくなり、直接かかわる活動や体験から生まれる「知的な気付き」を深めることが、十分でない。そこで、生活科のねらいである自立の基礎を養うためにも、意図的に地域の公共物や公共施設の利用にかかわらせ、活動や体験をさせることによって「知的な気付き」に迫っていく必要があると考えた。

本校の近くには児童公園があり、近くの児童がよく利用している。身近な公共物や公共施設を授業に取り入れることは、地域とのかかわりを持たせる学習指導として適しているといえる。

児童にとって、公共物や公共施設を利用することは、自分自身の生活を広げたり、豊かにしたりするために大切である。また、自分の生活に生かしたり、社会生活を営む上での生活規範の基礎学習の場としても重要である。

これまで児童は、「1年生を案内しよう」「すてきな町を探したいな」「与那原まつりについて調べよう」で身近な人々、地域の人々や場所とのかかわりを体験してきた。これまで行った体験をもとに、公共物や公共施設がみんなのものであることが分かるようにするために、実際に活動や体験をしたり、そこで働いている人々と触れ合い、かかわりを持つ中で公共物や公共施設への関心を深めていきたい。

これまでの授業実践を振り返ってみると、児童の思いや願いを活動に生かせず、教師主導型の授業展開が多かった。これらの反省をふまえ、児童にとって、興味・関心のある公園と繰り返しかかわらせ、児童の思いや願いを生かした学習指導を計画する。

実際に公共物や公共施設を利用し、それらを支える人々とかかわりを持ち、親しみをもつことで、安全に気をつけ、正しい利用の仕方、特に、新学習指導要領の改訂で重視されている社会生活の基本である「公共の意識とマナー」をさぐる体験活動から生まれる「知的な気付き」を取り組む中で、支援をし、一人一人の思いや願いを生かし、生き生きと活動する児童が育成できるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

児童の思いや願いを生かした学習指導を展開し、活動意欲の高揚を図るための体験学習を多く取り入れ、公共物や公共施設を正しく利用する楽しさの「知的な気付き」を支援することによって、生き生きと活動する児童が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

1 一人一人の児童の思いや願いを育てるには

生活科の学習は、児童の生活の中から活動が生まれてくる。生活科の授業だけでなく、他の教科や日々の生活の中で児童が思いや願いをもてるように、環境づくりをしたり、授業づくりをすることが大切である。

(1) 児童が活動する学級づくり

児童が「面白そうだな」「してみたいな」と自発的に活動できる環境づくりをする。

① 活動から児童の思いや願いを見取る

一人一人の児童が何に興味をもち、どんな思いや願いをもっているか、見取っていくことが大切である。何の働きかけもしないでは、児童の思いや願いは見えてこないが、あまり教師がレールを敷きすぎても、児童は思いや願いは出せない。そこで、児童が自由に好きなことに取り組んでいる休み時間、放課後の児童の活動ぶりやつぶやきから一人一人の思いや願いを記録して見取ることにする。

② 思いや願いを出せる場づくり

朝の会を大切にし、児童とともに歌や踊りを楽しみ、身体のリズムを同調させる感覚を教師がもつ必要がある。また、学級のみんなが何でも話しあえる雰囲気づくりをし、プログラムの中に「みんなに言いたいこと」を入れ、一人一人の児童からクラスの仲間への思いや願いを発表させる。学校生活の中に、児童が思いや願いを出し、他の児童がそれを共感的に受け止め温かく認め合い、願いを重ね合わせて共有化できるように支援する。

(2) 児童とともに作る授業づくり

① 単元計画を作るときは、児童の思いや願い、学びたいことをできる限りとらえて想定し、教師が見通しをもつ。児童の思いや願いと教師の願いを重ね合わせながら、いっしょに活動の計画を作っていく。

② 本時の授業づくりでは、前時までの児童の活動の様子をふまえて、児童一人一人が自分の考えを生かして、取り組めるねらいを設定できるように支援する。

③ 児童の思いや願い、活動のめあてを見取ったら、児童に最適の内容とタイミングで支援を行うと成就感につながり児童と教師の人間関係も深まる。

2 知的な気付きとは

児童は、直接かかわる活動や体験をする中で、人、社会、自然のことなどについて驚いたり、感動したり、不思議に思ったり、自ら考えたりして様々なことに気付く。知的な気付きとは、児童が思いや願いをもって取り組んだ活動や体験を通して、実感を伴って得られた気付きをさしている。

知的な気付きを大切にしていく上で児童の気付きを見取り、次の活動へと発展していけることばかけや支援を行うことが重要である。児童の姿に注目し、共感的に見取る必要がある。また、気付きは児童が学習するための意欲づけ・動機づけになることが多い。

(1) 子供の見取りやことばかけ

児童は、興味・関心のあることには夢中になってかかわっていく。生き生きと活動し、かかわりが深まると新しい疑問や問題点にぶつかる。それを解決するために様々な行動をしながら、ものの見方や行動の仕方を学び、身につけていく。そして児童に意欲や自信をつける。同じ活動をしていても、児童の経験や興味・関心のもち方、性格等によって気付きは様々である。一人一人に合ったことばかけを行い、気付きを連続、発展させていくように支援していくことが必要である。

(2) 人との交流と気付き

児童が成長し、自立していくためには人と直接かかわることによって、集団や社会の一員としての自分の在り方を考えたり、人と適切に接したりできるようにすることが重要である。

児童にとって、多様な人との触れ合いは気付きを生み、学ぶきっかけを作り出す。児童は、同じよ

うな活動をしているように見えても考え方や気付きなどは様々である。具体的な活動や体験を通して、お互いにかかわり合う状況を作ることで、他の児童との共通性や違いを知り、一人一人のよい点に気付くようになる。

(3) 環境設定の工夫

教室環境は児童の気付きを交流する最適な場所である。いつも目にする掲示板や黒板は、必要に応じて新しい情報や気づいたことを自由に掲示できるようにする。児童は、他の人から認められることによって、さらに周囲を注意深く見つめるようにする。

- ① 図鑑、その他の参考図書をおく。
- ② 発見カード、見つけたカードなど常時掲示
- ③ 児童が持ってきた実物を飾る

(4) 授業での場の設定

児童は活動中に自然に交流し、情報交換を行っている。より多くの気付きを生起させるためには、教師が意識的に交流の場を設定することも必要である。教師の役目は、児童を注目させ、ある子の気付きや考えをみんなに知らせ、広げる仲介をすることである。児童は自分と異なった視点を知ることにより、他方面からの気付きがあることを理解する。

3 活動意欲を高めるために

(1) 体験活動のもつ意義

体験活動では、児童が体を動かし、事実を見つめ、感動を味わい、自分を追求していくことが可能である。体験活動は、児童の学習や人間形成にとって、重要な活動であり、学習意欲を高める上で効果的であるといえる。生活科の学習において、体験活動を取り入れることは、児童の学ぶ意欲の形成につながると考える。

(2) 多様な人々とかかわり

児童が人と触れ合い、かかわっていくことはこれからの社会を生きる上で重要である。児童は、多様な人々とかかわることによって自分と異なる人がいることに気付き、共に活動する楽しさやよさを味わうことができる。具体的な活動や体験を通して、人々が自分とどんな関係があるのか考え、見直し、人に適切な接し方ができるようにしていくことが大切である。

① 友達と力を合わせて活動する

友達と話し合ったり、協力したりすることを通して、共に活動する楽しさを味わったり人の役に立つ自分に気がついたりする。低学年では、他者を認めたり、強調する力を意図的、計画的に育てることが大切である。

② 地域の人とかかわる

児童が身近な生活圏において、自分たちの生活を支えている人や共に生活している人に目を向けることが大切である。どのような問題意識を持ってかわるか、どのように考え、行動していくのか、ねらいを明確にして学習指導を展開することが必要である。

4 公共物や公共施設の利用

生活科で扱う公共物や公共施設は、学校や地域の実態に応じたもので、児童が興味・関心を持ち、児童の生活圏にある適切なものを取り上げる。児童にとって「みんなのもの」ということを実感させるために、身近にあることが大切である。身近にあることによって、施設利用が多くでき、繰り返しかわる中から「みんなのもの」という実感を伴った気付きが生まれる。

公共物や公共施設を利用することは、児童が自分自身の生活を広げ豊かにすることである。また、みんなのことを考えて行動しようとする態度を身に付けることでもある。

(1) 公共物や公共施設を支えている人々に目を向ける

公共物や公共施設は、みんなのものであるため、みんなが利用しやすいように、それを支えている人々がいる。児童が、公共物や公共施設を利用することができるようになるためには、そこにい

る人とかかわりが必要となってくことが多い。支える人々と直接かかわることを繰り返すことによって、児童自身が適切な行動にまで高まっていく。そのためには、活動の中に意図的に支える人々と触れ合う場を設定することが必要である。

安全に公共物や公共施設を正しく利用するには以下の4点に気をつけて指導する必要がある。

- ① 児童がこれからの社会を生きていくために重要な資質となる社会生活の基本のルールやマナーを身につけることである。
- ② みんなのものであるという意識が育つと同時に、これらがみんなのために役立っているという意識も育ってくる。
- ③ 児童自身が生活を広げ豊かにするという体験を味わうことである。この体験は繰り返し利用するという生活化へ発展するとともに（公共物や公共施設を大切に使う）基本的な意識も高まる。
- ④ 公共の意識とマナーは、教師が注意や制止を繰り返すだけの指導では、その場限りで終わってしまう。実際に公共物や公共施設を利用することを通して、児童自身が実感として分かるようにすることが大切である。また、公共物や公共施設に対して主体的に働きかけようとする意欲にもつながってくる。

(2) 公共施設と知的な気付き

身近にある公園の利用を図1にまとめてみた。

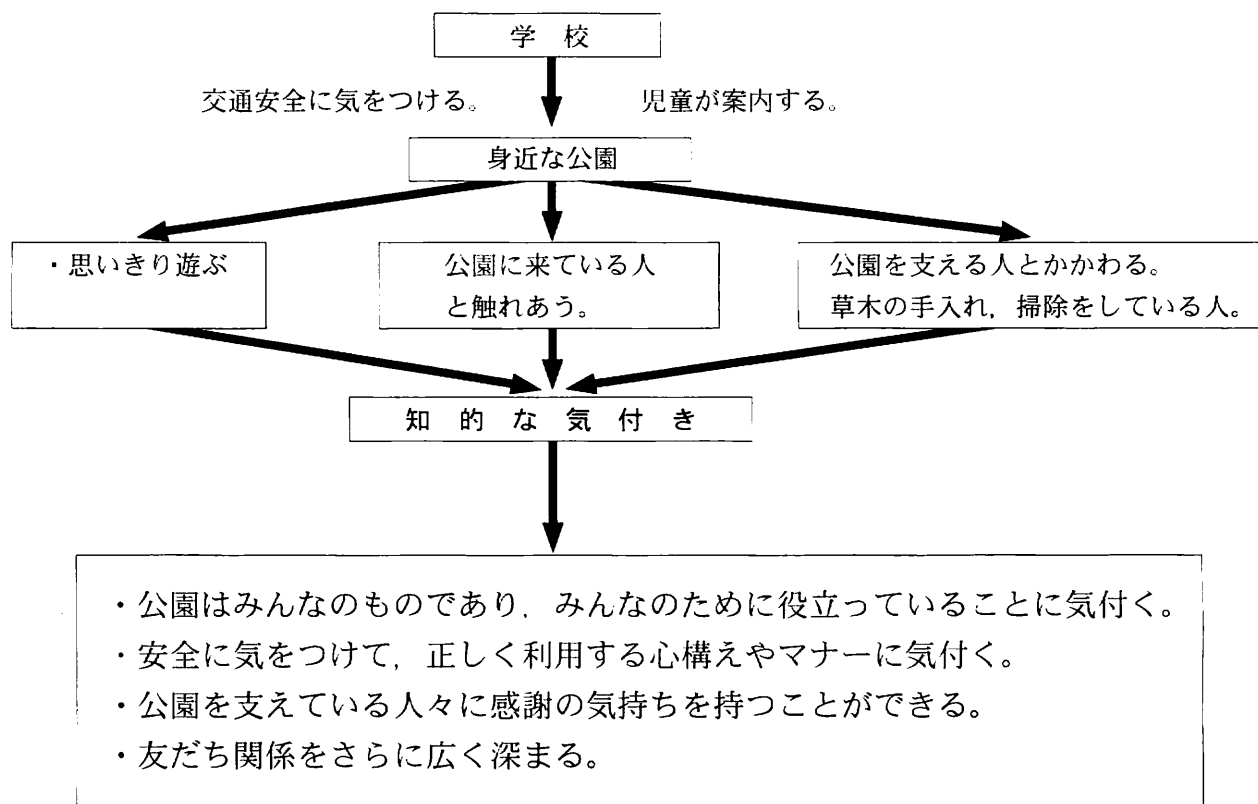


図1 公園の利用

5 思いや願いを生かし、生き生きと活動する学習指導の工夫

身近な公共施設に出かけて行き楽しく遊ぶ。そこで、「ブランコに乗りたい」など思いや願いが生まれ活動する。自分とその公共施設の関係に気付きながら、そこでの活動を広げていく。更に別の場所への興味・関心が生まれ、「他の公園にも行って見よう」と活動がひろがっていく。

公園に何度も繰り返し出かける活動をする、児童が地域を把握し、その場所のよさや魅力を感じ地域への愛着につながり、地域をよく知る子が育って行く。思いや願いを生かし、生き生きと活動する学習指導の工夫を表1にまとめた。

学習過程	学習活動	子供の意識の流れ	主な支援
つかむ	みんなが遊んでいる場所はどこかな	・家の近くに公園があるよ ・友だちと行っているよ ・楽しそうだね ・私も行ってみたい ・公園っていいところだね	・公園の自慢大会をし興味関心を持たせ公園に行きたいという気持ちになるよう導く。 ・公園で楽しく遊んだことを絵や文で表し、児童の発表に共感する。
行ってみる	公園で遊ぼう	・サッカーをやりようよ ・遊具がいっぱいあるよ ・あの遊具のてっぺんまで登ったら何が見えるかな ・いっぱい遊んだね、楽しかったね ・もう一度行きたいな ・公園を使っている人と話をしてみたいな	・友だちと仲良く遊べるよう場の工夫をする。 (見守る 認める 励ます、共感する 促す) ・遊ぶ時間を十分確保する ・自分たちの他にも利用している人がいることに気付くように示唆する。
考える	みんなが使っているんだね	・おじいさんやおばあさんたちは公園でゲートボールをしているんだね ・保育園生も小さい子も遊びに来るんだね ・公園はみんなで使うのできれいにしないとイケないね ・遊具はみんなで仲良く使おうね	・公園を使っている人の話に興味関心を持たせ雰囲気作りをする。 ・楽しく公園を使うためにどうすればよいか一緒に公園で使っている人の話を聞いて考えるよう促す。
もう一度行ってみよう	もう一度公園に行ってみよう 他の公園にも行ってみよう	・順番を決めて、遊ぼうね ・トイレ掃除をしている人がいるね ・草刈りをしている人がいるね ・前に来た時は草がいっぱいだったよ ・保育園生が来ているよ ・一緒に遊ぼうよ ・かごめかごめを教えてあげたいな ・おねえちゃんになったみたい ・おもしろい遊具があるよ	・公園の使い方について考える。 ・掃除をしている人に気付かせ迷惑にならないように声かけをする。 (場の工夫) ・保育園生と触れ合わせ仲良く遊ぶよう声かけをする。 ・活動の時間を十分確保する (見守る、認める、励ます、共感する、促す)
ひろげる	公園の地図を作ろう みんなができることはないかな	・公園の地図を作って見ようよ ・大きな紙に公園で見つけたことをいっぱい描こうよ ・お礼の手紙を書こうよ ・公園に掃除をしにいこうよ ・きれいにしたら気持ちよく遊べるね	・クレヨンなどを使って思い思いに描けるよう表現の場の設定をする。 ・公園はみんなが楽しく気持ちよく使う施設であることやそこを支えている人がいることが気付くよう示唆する。

学習終了後、生活の中で

「みんなのものである」という意識が育つ

「みんなのために役立っている」という意識が育つ

適切な行動、公共の意識を高める

図2 思いや願いを生かし、生き生きと活動する学習指導の工夫

IV 授業実践

1 単元名 「みんなの 楽しい あそびばへ いこう」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

子供たちが幼い頃から、訪れる公共の場は公園であり、休日、放課後に友達や家族と出かけ、利用している。そこは、子供たちの思いや願いを満足させてくれる活動が宝庫であるといえる。

これまで児童は、「すてきな町を探したいな」「与那原まつりについて調べよう」で地域の人々や様々な場所とかかわる活動を体験してきた。ここでは、自分たちがいつも遊んでいる遊び場、公園のじまん大会をさせ、「秋の公園はどうなっているだろう」「みんなで行ってみたいな」という児童のつぶやきから、自分たちで楽しく公園で遊ぶ計画を立てたり、準備をしたりして、グループで思いきり遊ばせたい。また、近くの保育園の子供たちと一緒に遊んだり、公園の掃除、草木の手入れをしている人とかかわりを持たせる。それらの活動を通して、公園を大切に正しく利用するためのマナーや公園を利用しているのは、自分たちだけでなく、たくさんの人がいることに気づき、遊びを工夫したり、後始末をしたりして、公共物、公共施設を大切に利用できるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、素直で、物事に対して前向きに取り組もうとする意欲があり、学習や生活においても、積極的に学ぼうとしている。探検活動もほとんどの児童が大好きで町探検、海探検、まつり名人探検と楽しく活動してきた。

単元の学習を始める前に、遊びや公園などに関するアンケートを実施し、実態調査を行った。

- ・76%の子が公園で遊ぶことが好きと答えているが、帰宅後は家庭内でゲームなどして、過ごす子が多い。

- ・公園や学校にある公共物を大切にできなかったり、ゴミを片づけなかったりする子もいる。これは公共の意識とマナーが薄いと考える。

- ・与那原町は、好きと答えている子が多いが、93%の子が理由や自慢したいところはわからないと答えている。これは、地域に対する愛着がまだまだ育ってないと考える。

(3) 指導観

児童にとって、公共物や公共施設を利用するという事は、自分自身の生活を広げ豊かにすること、また、みんなのことを考えて、行動しようとする態度を身に付けることである。

児童が実際に、公園等を探検し、利用する体験では、利用する人々やそこを支えている人々とかかわることになる。ここでは、観察したり、調べたりすることにとどまらず、支えている人々をゲストティーチャーとしておまねきして、インタビューをしたり、お話を聞いたりして触れ合い、自分たちのこれまでの公園の使い方を振り返えさせたい。

学習のまとめでは、自分が活動して楽しかったこと、うれしかったこと、分かったこと、気付いたことなど、伝える方法を自分たちで工夫し、多様な方法で表現させたい。また、施設の利用を通して、自分たちの地域にある施設がみんなのものであることを実感させ、それを支えている人の思いを知り、正しく利用したり、大切に利用しようという気持ちを育てたい。

3 単元の指導目標

- ・近くの公園で遊んだり、遊具を使ったり、触れ合ったりすることによって、施設を使う楽しさを味わう。
(関心、意欲、態度)

- ・体験したり、発見したりしたことを工夫してまとめることができる。(思考、表現)

- ・公園は、みんなが楽しく気持ちよく使う施設であることやそれを支えている人々がいることに気付く。(気づき)

- ・ルールやマナーの大切さに気付かせる。(気づき)

1 単元の活動の流れ

17時間（生活科12 国語1 図工2 特活1 道徳1）

★支援

◎留意点

○児童の思いや願い

学 習 活 動

公園に行こう（つかむ）

1. 公園のじまん大会をしよう 1時間

おもしろい
ゆうぐが
いっぱいだよ

わたしも公園に
行って
あそびたいな。

★自分が遊んでいる公園の名前や公園でやっている遊び等を紹介させることによって公園に行きたいという意欲を高めたい。



2. みんなで公園へ遊びに行く計画を立てる 1時間

サッカーをやろうよ。
ぼくがおしえるよ。

★公園のことをよく知っている子供を中心に話合う。

◎安全に行くために、どんなことに気を付ければよいか、考えさせる。

公園で遊ぼう（いつてみる）

3. グループごとに安全に注意して公園に行き楽しく遊ぶ 2時間

ぶらんこに。
のろうよ
ひこうき
みたいだ

小さい子も
お母さんと来て
いるね。

◎出発前に、めあてと公園までの交通安全について確認をする。

★思い思いにたっぷり遊ぶよう声をかけをし、利用者がいることに気付かせる。

★他の利用者に挨拶をしたり、いっしょに遊んだりするように声をかける。

4. ビデオや写真を見て考えよう 1時間

いろいろな人がいるね。
みんなたのしそうだね。

★公園で遊んでいるビデオや写真を見て公園をいっしょに使っている人に興味を持たせ、話を聞いてみたいという気持ちになるように声をかける。

5. 公園をいっしょに使っている人に話を聞く準備をしよう。 1時間

はきはきた声で、インタビュー
できるように練習をしようよ。

★公園をいっしょに使っている人に何を聞くか考えるように話しておく。

★ゲストティーチャーと十分打ち合わせをする。

6. 公園をいっしょに使っている人にインタビューをしよう。 1時間（本時）

★公園はいろいろな遊びができ、楽しいところであることに気付くようにする。

7. みんなの使うものをたいせつにしよう 道徳 1時間

★道徳の「みんなが使う場所での約束や決まりを守ろうとする心情を育てる」と関連させ考えさせる。

8. もういちど公園に行ってみよう。2時間

もういちど

毎日、おそうじをしているんですか
たいへんなこともありますか。



行ってみよう

◎めあてとみんなで話し合ったことを確認して出発する。

★グループで遊具の正しい使い方を考えながら遊ばせる。

★公園の掃除をしている人に気付かせ、仕事の迷惑にならないように声をかける。

★公園の掃除をしている人に関心をもち、はきはきた声でインタビューできるようにする。

◎掃除をする人に児童への対応などについて事前に連絡しておく。

りょうさんは、かえるときにおおじいちゃんに「ありがとう」言いました。と書いてたので、すごいなと思いました。

9. ほかの公園にも行ってみよう。2時間

ほかの公園にも行ってみよう

近道を知っているから
ぼくがあんない
するよ。

ほいくえんせいといっしょにあそびたいな。

◎公園で安全に遊ぶためのめあてを確認する。

★近くの保育園の園児たちと触れ合わせ、なかよく遊ぶように声をかける。

◎保育園へ事前に連絡をし、学習のめあて等について打ち合わせをお願いしておく。



10 公園で遊んで楽しかったことをおうちの人に知らせる作品を作る。（図工）2時間

公園の地図
をつくろうよ。

ふねの形を
した遊具が
あったよ。

★知らせる方法については、子どもの得意なもの
を選ばせるようにしたい。

★図工科の「したことをもとに描きたいことを
絵に表す」と関連させて作品づくりをさせる。

11. 掃除をしてくれる人や公園と一緒に遊んだ人に手紙を書こう。（国語）1時間

公園をきれいにしてくれて
ありがとうございます。

★国語科の「伝えたいことを簡単な手紙などに
書くこと」と関連させて手紙を書く。

★「愛の園」の人と一緒に遊んだ人へ感謝の気
持ちは込めてお礼の手紙を書かせる。

12. みんなができることはないか話し合う。（特活）1時間

公園のそうじを
しにいいよ。

★特別活動の「自主的、実践的に取り組もうとす
る態度を身につける」と関連させて話し合いを
させる。

★公園は、みんなが楽しく気持ちよく使う施設
であることやそこを支えている人がいることに
気付かせる。

ゴミはごみ箱に入れた
ほうがいいね。

13. 公園をきれいにしに行こう。1時間

ゴミがいっぱい
おちているね。
みんなでやったら
きれいになるね。

★みんなで力を合わせて公園のゴミひろいをする
ように声かけをする。

★ていねいにゴミを拾っている児童を称賛する。

みきさんとごみをいっしょひろいま
した。こうなるときれいになったので
うれしくなりました。またやりたくな
りました。



4 本時の活動（6/17）

(1) 活動名 みんながつかっているんだね。（使っている人の話を聞く。）

(2) 本時の指導目標

- ・公園にある施設は、みんなのためのものであることや安全に気をつけて、正しく利用する心構え
やマナーに気付かせる。
- ・ゲストティーチャーの話を静かに聞く。

(3) 授業の仮説

- ・公園を使っている人の話を聞くことによって、公園はみんなのものであり、一人一人がルールや
マナーを守って利用する大切さに気付くであろう。

(4) 展開

活 動 流 れ

教 師 の 支 援

5
分

1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する

たのしみだね
早く話が聞きた
いな

しっかり話を
聞こうよ。

★公園の絵や楽しく遊んでいる写真を見せ、
今日の学習への意欲を持たせる。

2. ゲストティーチャーを紹介する

★ゲストティーチャーに興味を持つように
紹介の仕方を工夫する。

・公園を使っている人の話を聞こう

20
分

3. グループに分かれインタビューをする。

★楽しい利用の仕方やなぜそこを利用してい
るのか等を話していただき、公園への魅力
を知らせる

- ・はきはきした声でインタビューする。
- ・話をしてくれる方に挨拶をする。
- ・静かに話を聞く。

公園でどんなこと
をしているのかな。

困っていることも
あるのかな。

はきはきした声で
インタビューを
するぞ。



・楽しく公園を使うためにどうすればよいでしょう

4.ゲストティーチャーに聞いたことをみんなで考える

15

安全に気を付けて
あそぼうね。

ゴミはきちんと
片づけないと
いけないね。

★自分たちだけでなく、利用する人が小さい
子だったり、お年寄りだったり、すること
に気付かせ、みんなにとって安全な利用方
法を考えさせていく。

5.話を聞いて思ったことを書く。

★2～3人の児童に発表させ、ルールやマナ
ーを守って公園を利用する大切に気付かせる。

ぼくは、いろいろな人がこうえんを
つかっていることがわかりました。
犬もさんぽにつれていくときは、
ジャベルとビニールをもっていきます。

わたしは、ゆうゆう公園にいて、
じてん車を公園の中に入れてあそ
んだことがあったので、これからは、
気をつけたいです。

5
分

6.学習のまとめをする。

★次回の公園あそびについて意欲づけをする

もう一度公園に行きたいな。

友達と一緒にいっぱい遊びたいな。

5 考察

(1) 授業仮説に対する考察

児童に生き生きと活動させるため、今回は公園を使っている地域の人をゲストティーチャーとして学習に活用した。老人会長の神谷さんはゲートボールの練習で公園を使っている立場から、近くの保育園の当真先生は、園児たちと公園遊びをしている立場からポスターセッション形式で児童とかかわりを持ってもらった。前日に指導内容等の話し合いをやったので、児童にわかりやすい話をしてくださった。児童は、目を輝かせ「早く神谷先生や当真先生の話を知りたい」とゲストティーチャーに興味・関心を示し、自分の思いを質問したり、話を聞いたりする等、意欲的であった。

話を聞いた後、みんなで公園の使い方について考える活動を取り入れた。「犬のふんを袋に入れて、持ち帰るよ。ガムは紙に包んでゴミ箱に入れた方がいいね」「自転車を公園の中に入れて乗り回して遊んだので次からは気をつけるよ。」「公園に入ってはダメのしるしがあることが分かったよ。」

「相手が何を言っても手出だしはしないでけんかにならないようにするよ。」「公園を使っているとみんな仲良くお友だちがいっぱいできるね。」「小さい子がいたら守ってあげるよ。」等と発表した。

児童はこれまでの公園の使い方を振り返り、公園はみんなのものであり、ルールやマナーを守って正しく利用する大切さに気付くことができた。これからも公園に行って楽しく遊びたいという意欲的な発言が多くなってきた。

V 研究全体の考察

本単元では、児童にとって興味・関心の高い身近にある公園に繰り返ししかかわらせ、生き生きと活動する児童を育てることを目指し、児童の思いや願いを生かした学習活動を計画し、授業を実践した。身近な公園に何度も繰り返し出かける活動において、近くの保育園の園児たちや掃除をしている人や草花の手入れをしている人と意図的にかかわらせた。児童は、自ら園児を遊びにさそいやさしく接することができた。また、掃除をしている人にインタビューをしたり、お礼を言ったりする子も見られた。

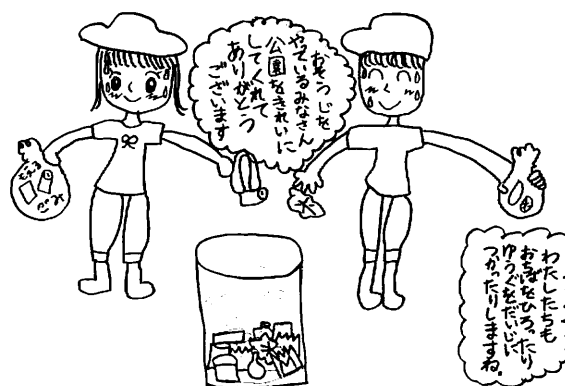
「みんなができることはないかな」の話し合い活動では、「自分たちも公園のゴミ拾いをしよう。小さい子には、やさしくしよう。公園に来ている人に迷惑をかけないように遊ぼう。掃除をしている人にお礼の手紙を書こう。」と児童の意見がまとまった。

本単元学習前の意識調査では、25%の児童が「公園遊びは嫌い」と答えていたが、学習後の調査では100%の児童が好きと答えている。また、公園のゴミ拾いを終えた後、「みんなでやったらきれいになるね。きれいになって気持ちがいいね。また、ゴミ拾いに行きたいね。学校の溝にも紙くずが落ちていたから拾ったよ。」と振り返りカードに書くことができた。帰宅後、公園や広場で遊ぶ子が増え、公共物や公共施設を大切に使う気持ちも高まった。自分たちの遊ぶ公園を自分たちできれいにしよう。仲良く使おうと気付いた児童は、公園を支えている人々とかかわりを深める中で、感謝の気持ちを持つことができた。また、自分の住んでいる地域の公共施設の利用についても興味を持つと同時に「公共施設利用のルールやマナー」がわかり自信と意欲を持って、他の公共施設についても調べてみたいという声が聞こえてきた。

児童の変容(Aさん、Bさん)

Aさんは学習時、声が小さく発表もほとんどしない児童であった。公園で思いきり遊ばせることにより生き生きと活動することができた。学習を振り返り話し合う活動では、発表に自信がでて、はきはきた声で自分の考えを伸べることができた。

Bさんは休み時間一人で過ごしている児童であった。繰り返し公園に出かけ、グループで遊んだり、公園に来ていた人と触れ合ったりすることにより、みんなで遊ぶ楽しさを実感した。他の公園へ行ってみようでは、自分から進んで、みんなの遊びの輪に入り楽しく活動できた。また公園に来ていた幼児にも声をかけ、一緒に遊ぶ場面も見られた。



資料 1 掃除をしている人へのお礼の手紙

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 児童の思いや願いを生かし学習指導を展開することにより、多くの児童が生き生きと活動するようになった。
- (2) 身近な公園に繰り返し出かけることによってその場所に親しみをもち児童が増えた。
- (3) 公共物や公共施設の利用の仕方がわかり、公共の意識やマナーへの関心も高まった。
- (4) 振り返りカードで友だちのいいところを見つけさせることにより、友だちの良さを認めるようになって、学級の雰囲気が良くなった。

2 今後の課題

- (1) 地域人材を組み入れた年間指導計画の作成
- (2) 生活科マップ、生活科こよみ、安全マップの作成

<主な参考文献>

嶋野道弘編	『新小学校教育課程講座(生活)』	ぎょうせい	2001年
嶋野道弘編	『新学習指導要領を生かした生活科の授業2』	小学館	2001年